



『日本に来て驚いたこと』

ほう びん
龐 敏 (中国)

私はほう敏と申します。日本に来てからもう1年半経ちました。初めての頃は、日本の生活に慣れないために、驚いた事がいろいろありました。今日は日本に来て驚いた事を話したいと思います。

まず、日本人はよく挨拶することです。毎日「おはようございます」とか「ありがとうございます」の言葉をよく聞きます。マナーが良いと思います。

でも、私が一番驚いた事はゴミの処理方法です。日本では道路にゴミ箱が置いていないのに、街並みが綺麗に見えます。自分のゴミは自分で持って帰ると聞きましたが、そのような習慣を身につけていることに驚いて、又心から感心しました。

日本ではゴミ分別システムが発達していると思います。ゴミの種類によって収集する日が違うので、指定されたゴミ以外は自宅に保管することになります。分別されるので効率的にゴミが集められ処理場に運ぶことが出来るし、焼却する費用も軽減されると聞きました。私からすると街並みが綺麗なのは、ゴミの処理方法が徹底されているからだと思います。

中国では、ゴミの処理方法があまり上手じゃありません、そして街並みは汚く見えるし、清掃する経費も馬鹿にならないと思います。中国でも日本のゴミの分別システムが導入されれば、ゴミを処理する費用が軽減されるだけでなく、生活環境が高まる事と思います。小さいことかもしれませんが、私は日本のゴミ分別システムを学び、中国に帰ったら、私の家族や周りの人たちと協力して、生活環境を守る意識を持って、その考え方を広げ、もっと綺麗な街にしたいと思っています。

本日、私が驚いた日本のゴミの処理によって、街が綺麗になる事について話しました。



『主婦の生活で見て聞いたこと』

ちょう ゆき
張 雪 (中国)


私の名前は張雪と申します。2年半前に中国の大連から来ました。昔から日本が大好きで、2012年に大連の日本語学校で半年勉強しました。2015年に日本へ来ましたが、その時は日本語をほとんど忘れていました。

今は主婦です。結婚して1年経過しました。主人は日本人です。主人はラーメン屋に仕事しています。いつも夜仕事しています。夜7時に家をでて、朝5時に帰ります。私は朝5時におきて、料理作って、一緒に食べます。主人は昼寝ます。私は家でテレビを見たり、日本語の勉強をしたりします。

私が作る料理は全部中国料理です。主人は中国料理が大好きです。いつも「おいしい おいしい」と言います。そして中国料理を勉強したいと言います。私が料理作るときに彼に教えます。でも私の日本語はまだまだです。だから教えるのに失敗します。

主人が休みの日は二人一緒に商店街に行きます。よく餃子の材料を買います。家に帰って、先に餃子の餡と皮を作り、全部準備ができれば餃子を作り始めます。主人も作りますが、彼が作った餃子はだめです。水餃子では餃子に水が入ってすぐ壊れます。だから私一人で作ります。

日本で生活しているのは嬉しいです。日本語だけの生活はちょっと大変です。今は昔より上手になりましたが、主人と恋愛を始めた時は何もわかりませんでした。あいさつだけでした。携帯に通訳があるので、よかったです。ご飯を食べる時も、遊ぶ時も、通訳を使いました。「いろは午後」日本語教室で4ヶ月ぐらい勉強しました。先生達は優しいし、まじめに教えてくれて、いつもありがとうございます。日本語が上手になるために頑張って勉強しています。



『日本の文化や人などの印象について』

ファム ティ フーン チン (ベトナム)

みなさん、こんにちは。

私は、チンともうします。ベトナムからまいりました。

今日、日本の印象について、はっぴょういたします。

去年の8月15日、なりたくこうこうにとouchやくしました。それからの1年3ヶ月、日本語や日本の文化などいろいろなことを学びました。日本に来たばかりのいんしょうの1番目は、静かで先進国とうつりました。日本の空港や駅はとても静かで、道路の車からは、クラクションの音はほとんど聞きません。そして、日本人はルールをすごく守りますね。

2番目は、服です。日本の高校生のスカートは短いですね。日本に来る前、日本人は、きちんとしているとおもっていました。私は着物を着たことがあります。着物を着て、他の人に肌を見せない文化だと思っていたからです。私は着物がだいすきです。

3番目は、食べ物です。この匂い、なんでしょう？納豆です。最初、私も食べられませんでした。先輩がおいしそうに食べているので、鼻を押さえて食べてみました。そのうちに慣れ、匂いがなくなりました。箸でぐるぐる、粘りが出て白くなり、おもしろいです。ベトナムには、納豆はなく同じ味のものがありません。だから、好きになりました。

日本人は、いつも優しいです。私の会社の社長とどうりょうのみなさんはとても親切です。日本語ボランティアの先生方とみなさんから、いつも手伝っていただきました。ほんとうにありがとうございました。

日本に来て、まだ1年ちょっとです。私には、まだ分からないことがたくさんあります。みなさん、どうぞよろしく願いいたします。

私のはっぴょうを終わります。ありがとうございました。



『食いしん坊』

にい えん (中国)
倪 燕

皆さん、こんにちは。私はニイエんです。「大家好. 我是倪燕！」

はじめにこれを見て下さい（カルビ、ロース、タンの写真）

皆さん、これは何だと思えますか？初めて焼肉屋さんに行った時の話をします。私は、焼肉屋さんで、おすすめのお肉を上から下まで全部注文して、後から辞書でお肉の名前を調べました。

これで皆さん分かったと思いますが、私は食べることが大好きです。皆さん、「旬」の意味を知っていますよね。今の時期は、栗といちじくが旬の食べ物です。だから、最近、私はよくモンブランを食べますよ。実は、私は日本に来る前に、甘い物はあまり食べませんでした。でも、今はたくさん食べるようになりました。好きな食べ物はどんどん広がっています。今も発展中です！

でも、一番好きな食べ物は、お母さんが作ってくれる家庭料理です。中国に帰る時は、お母さんがたくさん美味しいお料理を用意して待っていてくれます。お母さんは、よく「ニイ ニイ、ダイエットをして下さい。」と言います。でも、いつもいっぱい美味しい料理を作ってくれます。お母さんに感謝です。

あっ、そろそろお昼の時間ですね。

これから、私の大事なランチの時間なので、私はここで失礼します。

皆さん、さようなら。

ご静聴ありがとうございました。



フェルナンド ハシタ (スリランカ)

私はハシタともうします。スリランカから今年の7月にまいりました。日本語学校で、日本語の勉強をしています。じつは、私はアンパンマンやスタジオジブリの映画が大好きです。日本のアニメを見たり、大学で日本のビジネスを勉強したとき、とてもおもしろかったので、日本のことをもっともっと知りたいと思うようになって、日本に来ました。

私の日本のイメージは日本へきてからかわりました。日本へくる前は、日本のイメージはビルばかりで、自然がぜんぜんないと思っていました。でもじっさいはちがいました。どこにでもしぜんがありました。たくさんの家の前に木や花があります。ぶどうや、みかんの木も見ました。ビルがあってもそこには木や花もありますからきれいだと思いました。

ところで、みなさん、話はかわりますが、今日はここへどうやって来ましたか。自転車で来た方はいらっしゃいますか。

実は、日本へくる前は、日本の交通のイメージは、車と電車が多いと思っていました。でもじっさいは、自転車をつかう人も多いのでびっくりしました。スリランカでは、自転車で学校や会社に行く人はそんなにいません。私はいま毎日、自転車にのって学校や買い物に行っています。自転車は速いし便利だし体にいいと思います。

私は日本へ来て 4 か月です。日本へ来てから分かったことがたくさんあります。でも、いまわたしは、日本のぶんかをもっともっとしりたいと思っています。日本のいろいろなところにも行きたいです。そのために日本語が上手になるようにがんばろうと思います。

みなさんきいていただいてありがとうございました。



『ブラジルにいる日本人の生活』

きん れい (中国)
金 玲 (中国)

私は日本へ来る前に、ブラジルで6年間生活していました。ブラジルは遠い地球の裏側にありますが、日本人移民がたくさんいて、アメリカについて日本人移民が多いです。

わたしは道を歩いていると、ブラジルのこどもたちは私の東洋系の顔を見て「あなたは日本人ですか」と聞きました。時々買い物に市場へ行ってお金を払うと、売り子は「ありがとう」と言いました。わたしを日本人だと思ったのです。

現在、日系ブラジル人はブラジル総人口の1パーセントいます。ブラジル人100人にひとは日本の家系です。ブラジル人は情熱的で、楽天ですが、ちょっとなまけ物です。日本人は、勤勉で、謙虚で、仕事に励みます。日本人とブラジル人は生活様式がまったく違いますが、うまく調和して生活しています。

日本人はブラジルで大規模な農場を持って、自分のブランドも立ち上げて経営しています。同時に日本の美食文化もブラジルに伝わっていました。特に刺身と寿司が流行っていました。いろいろなレストランでブラジル人はいつも使っているナイフとフォークではなく箸を使っていました。そして箸で鮭を掴まんで口に運んでいました。

箸といえば、わたしは楽しいことをひとつ思い出します。ポルトガル語で箸は「^ハrashi」です。発音は日本語の橋と同じです。日本へ来たばかりの時レストランで、わたしは箸を頼めましたが「橋をください」と言いました。店員はぼかんとしていました。今わかりましたが、その店員はどうしてレストランで橋を求められたのかと不思議だったのですね。



メクデス アダネ（エチオピア）

わたくしはメクデス・アダネともうします。エチオピアからきました。

わたしは日本で2ねんまえにけっこんして、こどもがうまれました。おんなのこです。11月10日で1さいになります。とてもかわいいです。にほんは いろいろなよいことで せかいで1ばんのくにだと おもいます。日本に来てからいろんなことを勉強しています。

- ① たとえば でんしゃは やくそくのじかん通りにきます。おくれるときは アナウンスでしらせてくれます。にほんではあたりまえですが わたしにとってはすばらしいことです。アメージング！！
- ② つぎにびっくりしたことはATMです。コンビニエンス、ぎんこう、ショッピングフロアー、どこでもおかねの だし・いれ ができることです。だれでもあんぜんにおかねの だし・いれ ができます。
- ③ さんばんめ、よなかのおそいじかん 2時、3時に じょせいが コンビニでかいものができます。こんな あんぜんな くには せかいじゅうにないです。にほんだけだとおもいます。
- ④ よんばんめ、にほんのトイレは せかいで1ばんです。コンビニエンス・デパート・アパートメントどこにいても ウォシュレットがあります。びっくりです。きもちいいです。でも、わたしのいえにはウォシュレットがないです。ざんねんです。
- ⑤ さいごに レストランのサービス・おもてなしは せかいで1ばんです。だからせかいじゅうからの ツーリストのおきゃくさんがたくさんにほんにくるのだとおもいます。わたしはにほんがだいすきです!!あいしています!!
にほんありがとう!!



『面白い運動会』

ない せい
芮 誠 (中国)

「絶対成功させるぞ」と心の中で決意した。小学校最初で最後の運動会で精一杯に頑張ろうと決めました。

9月30日は秋季大運動会でした。毎年学年が赤白の二つのグループに分かれて、団体で戦うのです。僕は赤組でした。初めての運動会なので、何があるか全然分かりませんでした。けれど、練習の時からたくさんの友達は僕に教えてくれて、僕はだんだんと自信を持つことができました。

最初の競技は一、二年生の50メートル走でした。これも得点種目の一つなので、僕の心も得点と一緒に変わりました。残念だったことは、始めは白組が優勢だったことです。一瞬で、僕の心が燃えました。次の棒引きの時には僕の闘志が漲りました。

いよいよ始まりました。和太鼓の音と一緒に一生懸命に走り、真ん中の棒を目指しました。走るのが遅いので、相手に棒を取られてしまいました。一人では無理なので、他の棒を取りに友達を助けに行きました。第一回戦目、赤組と白組がそれぞれ4本ずつだったので、引き分けになりました。「次は絶対成功させよう」と小さな声で言い聞かせました。その時僕の頭の中で「絶対に勝つ」と考えていました。僕とみんなの協力で、第二回戦目を勝つことができました。

「万歳、万歳」得点は白199対赤201になりました。赤組は2点リードしていました。この気持ちは中国の運動会よりも倍に楽しくなりました。初めの勝利があり、少しずつ勝利を重ねていきました。午前の部が終わった時赤組が80点リードしていました。ただし、午後の部では、白組はだんだん強くなりました。しかし、最後は603対606、3点差で勝つことができました。

最初で最後の小学校運動会、本当に楽しむことができました。



ちょう げつえん
張 月圓 (中国)

皆さん、こんにちは。去年の10月29日、中国から参りました。張月圓と申します。

今日は、日頃感じていること、思っていることをお話ししたいと思います。

去年の今頃話せる言葉は「こんにちは」だけでした。まさか、ここで、お話しできるとは思ってもいませんでした。

日本に来たばかりの私は、分からないことだらけの毎日でした。道に迷ったり、駅の入りを間違えたりしました。日本の生活に慣れる為に、日本語学校に通ったり、ボランティアの日本語教室に行ったりしました。

時間が過ぎるのはとても速く、日本での生活ももう一年になります。分からないこと、迷うことも少なくなりました。

でも、それと同時に、悲しくして寂しい気持ちになる時もあります。中国での仕事や親友との楽しかった生活を思い出すと、自然と涙が出て来ます。時々感じるこの寂しさは、生活のほんの一部ですが。

びっくりしたこともあります。例えば、冬のすごく寒い時でも、日本の女子学生はスカートをはいています。どうして、冬なのにズボンを履かないのでしょうか。

また、暑い夏なのに、時々、冬の帽子をかぶっている人を見かけます。どういうことなのでしょう。

ここは、日本です。国によって文化が違います。考え方も習慣も違います。どちらがいいか、比べられないと思います。特色があれば魅力があります。魅力があれば、お互いに学び合うこともできます。

日本に来てから仕事には就いていません。特別なことはありませんが、毎日のささやかな生活の中に、楽しさを探しています。「今日の空、こんなに綺麗で青いなあ、いい気持ち！」「今日、5割引の美味しい牛肉を買った。楽しい！満足！」といった具合に、自分に言い聞かせます。

これが私の今の生活です。のんびりとした生活ですが。生活が楽しいかどうか、自分の考え方次第で決まると思います。

これで私の発表を終わります！ありがとうございました！



『私にとって一番大切な人』

ファン ティ トゥイ ハン (ベトナム)

私は幼いころの母の姿があふれるように思い浮かべることができます。母はどこか出かけるたびに、私を連れて行ってくれました。毎日髪を三つ編みに編んでくれました。病気の時おかゆを作ってくれました。蒸し暑くて眠れない時、うちわで扇いでくれました。

小学校時代の母との楽しい思い出がたくさんあります。でも中学校に入り新しい友達ができ、友達と遊ぶことが増えて母と出かける時間が減りました。高校では一段と忙しくなり家事を手伝ってあげませんでした。洗濯から食事まで母が全部してくれました。母と一言も話せなかった日もあります。高校をでて進学のためホーチミンに移り友達と住んでいました。バイクでわずか2時間ぐらいですが年に二回ぐらいしか帰省しませんでした。いつのまにか悩みも昔のように母に打ち明けられなくなりました。

日本に来たばかりの時、夕暮れになんか母に会いたくなり電話しようと思いましたが、何を話せばよいのか迷ってしまいました。どうして私と母の関係はそんなに大きく離れたのかわかりませんでした。

去年の9月、仕事からの帰り若いお母さんと3歳ぐらいの子供が手をつないで歩いているのを見かけました。その子のキラキラした目、そして無邪気な笑顔を見て自分の幼少期を思い出しました。最後に母と手をつないだのは小学校の入学式、それ以来手をつないだことがありません。過去を振り返って、私は心の底から母がとても大切な人だと気付きました。

私はどこでくらしでも、何歳になっても、お母さんの娘です。あの日、家についたらすぐ母に電話しました。今では仕事がいくら忙しくても週に一回は電話しています。人間関係がいろいろありますが親子の絆が一番大切だと思います。



『第二の故郷』

きょう き
匡 毅（中国）

皆さん、日本といえば何を思い浮かびますか？とっさに思いつくものは桜、富士山、お寿司、温泉、アニメなど、たくさんあります。今日は、わたしが外国人として、日本の生活について、話させていただきます。

2015年4月、私は、日本に来ました。一人暮らしはたいへん寂しかったです。生活も思う通りにうまくいかず、日本語が上手でないために買い物でもなかなかできませんでした。一人で食事にはいきたくありませんでした。電車はよく乗り間違いました。面接も何回も失敗しました。周りの人より、自分は本当に弱いんだなと思ってがっかりしました。なにもしたくない、なにもできなくなってしまいました。それから、自分はどうすればいいのか、未来への不安が色々とあり、非常に怖い気持ちを感じられました。そのような状態で、一週間で過ごしました。辛い毎日でした。しかし、暮らせば暮らすほど日本の生活に慣れてきました。とくに日本語の教室に参加して以来、わたしの生活はどんどん変わりました。日本語を勉強しながら、たくさん友達ができました。さらにいろいろなイベントにも参加しました。料理パーティー、バス旅行、桜祭り、国際交流会、初めて日本に来て、私は本物の日本の生活に接しました。いつも指導してくださった先生方、教室のボランティアをはじめ、皆様に心から感謝しております。おかげさまで、充実した毎日を楽しく過ごすことができました。それからはやる気満々で毎日頑張りました。

いま、日本は、私の第二の故郷と思い日本の生活が好きになりました。環境がいいし、食べ物も美味しい。そして、日本人はマナーが良いんです。例えば、朝のラッシュ時もまず降りる人が降りてから、後でみんな並んで乗り始めます。一番最後まで、心配せずに乗れることができます。エレベーターに乗る時も、最初に入った人がドアを開けてくれますし、出る時もボタンを押して待ってくれます。本当に優しい感じがしました。これは、日本では当たり前かもしれませんが、外国の方はこういったことに驚かされるでしょう。本当にびっくりしました。

これから2020年東京オリンピックもありますし、素晴らしい人生を迎えて、一步步積み重ねて日本語と日本の文化を楽しんでいきたいと思います。以上です。ご清聴ありがとうございました。



『子どもころ教科書でみた日本、

大人になってくらした日本、今の日本について』

アフィア ベゴム (バングラデシュ)

みなさんこんにちは。わたしはバングラデシュ出身のアフィア ベゴムです。23 年まえにはじめて日本にきました。

わたしは子どもころきょうかしょで、日本のしゃしんをみました。そして日本人のくらしかたをしりました。バングラデシュとおなじような、さかなとおこめをたべること。みんなが花がだいすきでいえのまえに花をうえること、日本人がまじめなことなどです。おとなになってから日本にきて、それがほんとうのことなのをしりました。そのときわたしは日本でながくくらしたいとおもいました。

そのご 11 ねんかん日本でくらし、むすめもうまれました。子どもを日本で育てたことはたのしいけいけんです。ほいくえんでは、まいとしょうえのどうぶつえんにいきました。しょうがっこうでは、はたをもって子どもたちがどうろをわたるのをてつだいました。しごとのでまえのいそがしいじかんですがたのしいことでした。

わたしはたべものをはじめ日本のやりかたすべてがすきです。そのなかでとくにわたしがびっくりしたことがあります。

しょうてんがいをあるいていたとき、はっときづくと、うしろからじどうしゃがゆっくりとすすんできました。クラクションもならさずにです。そういうことが、3 回もありました。それをとてもめずらしいこととかんじました。そのごむすめのがっこうのためにくにへかえりました。いまむすめはカナダのだいがくにいき、わたしは 2 ねんまえ日本にまたきました。しごともしています。でもまえとくらべてちょっとちがうとかんじることがあります。

でもわたしは、わたしがきょうかしょでしった日本、またはじめてくらしたやさしくてまじめな人が多い日本のままでいてほしいです。そしてずっと日本でくらしたいです。

ありがとうございました。



『僕とピアノの物語』

ない つう
芮 通 (中国)

十月十四日は学校の七十周年式典でした。僕は全校合唱<<故郷>>の伴奏しました。この曲は難しくないのですが、練習の時、僕は全校生徒さんの前で、間違っていました。七十周年の時、僕はとても緊張していました。しかし、たくさん練習していたので、僕は落ち着いて、間違わずに完璧な伴奏することができました。

僕は四歳からピアノを勉強し始めました。その時、ピアノが大好きでした。綺麗な音楽を弾きたかったのです。勉強進度が少し遅くなりました、気持ちが変わりました。しばらくの間、上手に弾けませんでした。僕はだんだんピアノが嫌いになりました。

「なぜ上手に弾けないんだろう。」と僕はそう思いました。あの6か月ぐらい僕はピアノを弾きたくなかったです。毎日練習時間はたった20分未満でした。だから、僕は「もうピアノを弾きたくないです。」とお母さんに言いました。しかし、お母さんとピアノ先生は「あきらめないでください。」と僕に言いました。最初は僕がピアノが好きでしたが、今は変わりました。お母さんの態度も変わりました。「もう一年我慢してください」と僕に言いました。そして、僕は「あと1年しかないから、何となく我慢する。」と思いました。

しかし、奇跡が起こりました。実は僕がピアノを弾きたくないわけではなかったのです。たくさん練習をして、弾きたい曲はもっと多いと実感しました。それは本当に不思議でした。僕の気持ちが戻った原因はわかりません。でも確かなことが一つだけあります。それは僕はこれからピアノを弾き続けたいということです。